

議 事 録

会議名	平成24年度 第1回 福岡市地域公共交通会議
日時	平成24年 7月27日（金）10時00分～11時00分
会場	アクロス福岡 6階 605会議室 （福岡市中央区天神一丁目1番1号）
議事概要	
発言者	発言要旨
事務局	●平成24年度第1回福岡市地域公共交通会議を開会する。
会長	＜会長挨拶＞
事務局	＜委員紹介＞
事務局	●福岡市情報公開条例に基づき、会議は原則公開としており、傍聴を受け付けている。 ●議事録は、後日、福岡市のホームページに掲載する。 ●過半数の委員が出席していることから、福岡市公共交通会議規則第6条第3項により、今回の会議は成立する。 ●議事の進行については、福岡市地域公共交通会議規則第6条第2項に基づき、会長にお願いする。 議題1 今宿姪浜線乗合マイクロバスにおける一日フリー乗車券の発行について
事務局	＜説明＞ 資料1・参考資料1
会長	○フリー乗車券はどこで販売をおこなうのか。
事務局	●バスの車内や、姪浜タクシー本社で販売する予定である。
会長	○販売場所を周知していく必要がある。
事務局	議題2 西鉄バス賀茂藤崎線の運行運賃の見直しについて ＜説明＞ 資料2・参考資料2

委員	○地域住民に説明会をおこなったとのことだが、出席率はどの程度だったのか。
事務局	●住民の方全てを集めての説明会はおこなっていない。 ●2年間の取り組みの中で、校区の代表の方を通じて意見交換する体制ができおり、住民の方々の意見も代表者に集約していただいている。 ●きちんと説明してほしいと要望があった町内には、別途説明に伺っている。
委員	○23%値上げという具体的な数字は、説明しているのか。
事務局	●具体的な値上げ額が決まってから、改めて地域に説明に伺っている。
委員	○路線バスの運賃は本来、国土交通大臣の認可を受けた、上限運賃の範囲内で設定するのが大前提である。平成18年の道路運送法改正により地域公共交通会議が制度化され、地域の合意があれば、地域の実情に合わせた運賃が認められるようになった。しかし、今回はあくまでレアケースであって、大原則は上限運賃制であることを、各委員の方にはご確認いただきたい。 ○賃率を改定する手続きをとるのが本来の形である。ただそれはかなりハードルの高い手続きになる。地域特有の理由と合意をもとに、今回、公共交通会議の場で議論したものと理解している。
委員	○今回の賀茂藤崎線という路線は厳しい状況だった。他にも厳しい路線があったが、例えば脇山線は空白地が発生するケースにあたったため、市の空白地対策の補助が受けられた。この賀茂藤崎線は空白地が発生しない、特殊なケースだった。バス停の広告、バス内の広告をとったりする手法も考えられたが、今回は直接サービスを受けられている利用者の方に負担を求めたい。 ○いろいろなケースがあり、利用者が少なく事業が成り立たない場合、路線沿線の商業施設や学校、病院、自治体も受益者と考えて、負担を求めることも考えられる。 ○事業者側もコスト削減を図ってきたが、それでもまかなえない最低限かかるコストの部分を今回議論していただいている。 ○今後高齢者の方の増加も考えられ、坂道の多い地域などでも高宮循環バスのような、実験的な取り組みをやらせていただいている。 ○住民の方々に広く情報をお伝えすることによって、いろいろなやり方を今後開発していきたい。 ○自治体の財政状況も厳しく、補助金に頼ってばかりではいけない。
委員	○これまでの利用人員の目標値は1日当たり250人だったが、値上げによる利用者減はどの程度見込んであるのか。新しい目標値はあるのか。

事務局	●地域との話し合いの中で、1日あたり215人の利用者を新しい目標にして、利用促進に取り組むことにしている。
委員	○現在の利用者数が、そのまま目標値になっている。運賃値上げによって利用者が減る可能性が高いのではないか。
事務局	●運賃が上がるので、利用客は減るかもしれないが、目標としては、現在の利用者を維持していこうと地域の方と話している。
会長	○議題1の今宿姪浜線乗合マイクロバスにおける1日フリー乗車券の発行、議題2の西鉄バス賀茂藤崎線の運行運賃見直しについての2つの議案について、福岡市地域公共交通会議として了承してよろしいか。
委員	＜異議なし＞
会長	○2つの議題について了承する。
報告1 東区美和台におけるバス運行社会実験の報告について	
事務局	＜説明＞ 資料3・参考資料3
委員	○どういった環境が整ったら試行運行を実施するのか。
事務局	●現在は地域がアンケートに取り組んでいる段階であり、事業者の選定や運賃の話はまだこれからという状態である。地域住民がアンケートの意見を集約し、運賃や収支を検討した上で、交通事業者と地域が合意に達してようやく試行運行に至るものと考えている。
委員	○路線沿線の商業施設や病院に協力を仰ぐという方法も模索していかないといけない。 ○既存の交通に与える影響も考えないといけない。この報告書でもタクシーの利用が減ったという結果になっている。地域にとって必要以上のものを作ると、交通が過剰になって共倒れになってしまう。それは避けないといけない。 ○コミュニティバスについてのガイドラインが国土交通省から示されているが、既存の交通との兼ね合いを十分に検証するよう求められている。

委員	○今回は報告だけだからよいが、将来的にこの地域公共交通会議で議決しないと いけないのかが気になっている。 ○タクシーの利用が減ったという結果が出ており、タクシー業界としては慎重に 考えていかねばならない。 ○バスとタクシーの競争があってもいいと思うが、片方だけ行政からの支援があ ったりすると困る。その時は業界として意見を出していきたい。
委員	○バスやタクシー、自転車なども含めた、地域のトータルの交通体系を考えてい かないといけない。
会長	●以上で議題については終了し、進行を事務局にお返しする。
事務局	●次回の開催時期は現時点で未定であり、決まり次第ご案内する。 ●今回の会議は以上で閉会する。